

第5期第4回横浜市子ども・子育て会議放課後部会 会議録	
日 時	令和3年12月9日(木) 18時30分～20時
開催場所	横浜市庁舎 18階 みなと4・5
出席者	明石要一部会長、青山鉄兵副部会長、青柳寛子委員、宮崎良子委員、松本豊委員、水島貴志委員
欠席者	池田浩久委員、辺見伸一委員、宮永千恵子委員
開催形態	公開(傍聴者3人)
議 題	<議事> 横浜市放課後児童健全育成事業の質の向上に関する検討について
<p><議事></p> <p>横浜市放課後児童健全育成事業の質の向上に関する検討について (事務局) 資料5から7に基づき説明</p> <p>(水島委員) 多くのアンケートを取っていただいて、その結果に基づいて令和4年度の取り組みを検討してくださっていることが分かりました。以前、校長会でも、検討している内容をお話いただきまして、特に長期休業中の開所時間を前倒しすることなどのご説明をいただきました。その際の校長先生方の反応としましては、長期休業中のことですし、学校としては特に問題ないようでした。</p> <p>(宮崎委員) それぞれの放課後キッズクラブごとに、異なる課題があるかと思います。全体的な方向性は良いと思うのですが、ぜひ個々の放課後キッズクラブに対応していただき、それぞれの放課後キッズクラブで抱えている問題を丁寧に吸い上げ、解決の方向にもっていただくとことを希望します。</p> <p>そして、スタッフの方々の負担が非常に大きくなってきていると思います。ぜひ負担を少なくする方向で、事務作業等も可能な限り簡潔にできたらいいのではないかと思います。</p> <p>(青山副部会長) 私は、横浜市放課後児童健全育成事業の質の向上に関する検討会にも入らせていただきましたが、具体的なおやつのことや保護者会のこと、長期休業中の開所時間のことなど、これまでの課題を踏まえて着実に改善されている点が多いかと思います。また、それぞれがアンケート結果のニーズとの整合性も取れていると思いますので、おおむね一歩ずつ良くなっているという感覚を持っております。</p> <p>私からは2点ございます。1点目は、資料7の「現在の基本的な考え方と見直しの方向性」についてです。改訂前は、はまっ子ふれあいスクールから放課後キッズクラブへの移行が終了したの</p>	

で、今度は質の向上に向けて、ということで大きく時期ごとに目標が書かれているという印象を受けましたが、改訂後は期間を設けるのではなく、まずは当面、ということになるのでしょうか。

2点目は、様々なプログラムの改善を考えていく上で、今回話題になっていないこととして、学校施設の利用や活動の場所自体が少ない、という問題があるかと思います。学校施設の利用の可能性を少し高めるような工夫も今後は課題になってくるかと思います。

(松本委員) 私からは3点ございます。

1点目は、資料6の9ページに「(10)市が行う人材育成研修としてどのような内容を希望しますか」というアンケートがあり、前回の検討会でも、どれも必要なことで、あれもこれもやりたいという御意見が出ていたと思います。今回オンデマンドということで、立場や経験に合わせて選択し、研修が受講できるというのは非常に良いと思いました。ただ、勤務時間内にきちんと実施できるような、職場づくりもぜひ進めていただきたいと感じました。

2点目は、資料6の26、27ページに子どもたちの声が本当にたくさんあり、子どもたちの様子が目に浮かぶようでした。放課後キッズクラブ同士の交流をしてはどうなのか、という案があるのですが、交流を通してお互いに参考になることがあったり、共有できるものがあったりするのではないかと思います。

3点目は、資料6の67ページ、「(1)－1高学年(4年生以上)のお子さまの利用にあたって、保護者としてクラブに求めるものは何ですか」の中の「科学実験などの学びのプログラム」についてです。私は長らく理科の教員をしておりまして、今も個別支援学級で時々子どもたちが喜ぶ簡単なプログラムをやらせていただいておりますが、やはり1年生から6年生がいる中でできる課題や安全な教材について考えると、「科学実験などの学びのプログラム」は非常にハードルが高いのではないかと思います。横浜市を中心に活動しているNPO法人で「科学実験などの学びのプログラム」を提供している団体もあるのですが、そこもやはり4年生以上を対象にしたり、小学校の科学クラブの支援に入ったり、かなり専門的なところがあるので、うまく提供できる企業などがあればいいのかと思います。

(青柳委員) 私は横浜市PTA連絡協議会から来ておりますので、保護者目線として申しあげます。休業日の開所時間の前倒しの件、検討していただいているということで、保護者にとっては非常にありがたいと思います。幾つか、息子が所属する小学校の放課後キッズクラブや、会長仲間の放課後キッズクラブなどに聞いたところ、8時半だと9時始業に間に合わない場合があり、保護者の方によっては、門が開く前にお子さんを置いていってしまう、ということをよく聞きました。8時開所というのは、スタッフが大変かもしれませんが、非常にありがたいと思います。

そして、原則4時半まで希望があればおやつを提供ということですが、逆に、保護者の方によっ

では、お腹いっぱいになって夕飯に響くという理由や、費用の 100 円を払いたくないという理由で、おやつを希望しない方がいらっしゃるという話を聞きます。そのあたりはどのようにお考えなのでしょうか。

(事務局) 幾つかご質問をいただいたので、順番にお答えさせていただきます。

まず、青山副部会長の、基本的な考え方の改訂をどのタイミングで行うのか、というご質問についてですが、前回は平成 26 年に新制度が始まることに伴い改訂しております。状況が変わったタイミングで変更していくと考えておりますので、今回は横浜市子ども・子育て支援事業計画の第 2 期が始まっていること、放課後キッズクラブの全校整備、そして放課後児童クラブの基準適合への対応が終わったタイミングとなる今、現状に合わせた形で改訂させていただきます。

また、学校の活動場所について、アンケートや、スタッフの方から活動の場所が足りないというご意見は多くいただいております、私どもも課題と思っております。学校の 35 人学級が導入される状況の中で、学校の中で施設を使わせていただきながら、活動場所を確保していけるのかというのは、引き続き検討していきたいと思っております。

青柳委員からのご質問になりますが、おやつについて、様々な現場で御対応いただいているお話を伺いますと、事情によりおやつを出していないところもあろうかと思えます。一方で、現場からは、この子に出してこの子に出さないというのが大変だ、というようなお声も伺います。他の子が食べているのに自分だけが食べられないと、子どもにとってストレスとなる場合もございますので、本当に必要のない場合もあるかと思えますが、その辺りは課題として考えていきたいと思っております。

(明石部会長) 今回、膨大な資料をデータに落とし、分析をした上で提案をしていただいたので、私たち委員としては、議論する筋道が通っているので、非常に議論しやすいと思えました。

まず、アンケート結果が非常に興味深いと思えます。部会長として嬉しかったのは、保護者と子どもたちの良かったという評価が本当に嬉しいです。こんなに出るとは正直思っておりませんでした。保護者と子どもたちにアンケートを取ってくれたからこそ、言えることかと思えます。

そして、子どもの遊びの種類の豊富さ、今はやっていないけれど今後やってみたいことは、非常に貴重な、良いデータの取り方だと思います。今やっていることで何が楽しいかも大事ですが、これからやってみたいことがこのデータで出てきておりますから、貴重なデータだと思います。

さらに、地道につくった運営や、まだ組織としては弱いクラブに対し、税理士や事業者がサポートする、ということを私は以前から申しあげてきましたが、少し大変な組織に対してテコ入れをするというのは、その団体にとっては非常に嬉しいことではないかと思えます。

少しお願いしたいこととしては、各組織の、申請方法や手続きが非常に煩雑なことについてで

す。民間の事業者は手続きのプロがおりませんので、簡便に申請などをやっていただければと思います。

そして、質の向上というのを令和2年から6年までで5年間実施しますが、質の向上がうまくいったということをどこで測定するか、考えておきたいです。3年目の中間でやるのか、5年目の大体前半でやるのか、それを今後検討させてください。その際に、子どもたちの自己評価など、いろいろな指標がございますが、自信がついた、これだけ伸びたという面と、もう一つは、思い出づくりができたかどうか、要するに、なかなか学校も忙しくて、思い出ができないときに、放課後キッズクラブに行けば何か思い出ができたかという面です。様々なグループが集まってきますから、何か学校では味わえない思い出があった、というのも欲しいと思います。

最後に、スタッフの方のストレスチェックを検討していただきたいです。スタッフの方はストレスが増えていないか、というデータもどこかで取っておくと、子どもは伸びたし、保護者は満足しており、スタッフの方もストレスが減ってきた、だから質が高まっている、と言えるのではないかと思います。今すぐでなくて良いですから、その点も少し考えていただきたいと思います。

(青山副部長) 今後、評価の基準を考えていくことは、次の課題として非常に重要だと思います。今までは量的な拡大などの面で測れることも多かったと思いますが、今後、質の部分に重点が移行したときに、その質をどう測るかということはすごく大事になると思います。

明石部会長のご意見のような、スタッフのメンタルヘルスや子どもの成長をそれぞれぜひ大事にしたいと思うのと同時に、評価に一番なじまない部分なのですけれども、目的、合理的な効率性や生産性、教育性だけでない部分をどう測るか、測らないか、という点は一番難しい部分だと思いましたので、そのあたりについても議論できると良いかと思います。

(明石部会長) 独りぼっちでもいい、自分だけの居場所がここにある、というお子さんの出現を、学校ではあまり認めませんが、放課後の時間ではそれを奨励し、それぞれの居場所がこれだけあった、という視点も入れていただけると、学校関係者も助かると思います。

最後に、本件の検討状況につきましては、部会長の専決事項として私と事務局で確認を行い、横浜市子ども・子育て会議総会に報告するというところでよろしいでしょうか。

(異議なし)

(明石部会長) 本日の議事は以上で終わりたいと思います。

以上

資料	<p>[議案資料]</p> <p>資料5 横浜市放課後児童健全育成事業の質の向上に関する検討について</p> <p>資料6 令和3年度放課後児童健全育成事業の質の向上に向けた取組みに関するアンケート結果</p> <p>資料7 放課後児童育成施策の推進にあたっての基本的な考え方の改定(案)</p> <p>[参考資料]</p> <p>資料1 横浜市子ども・子育て会議 放課後部会 委員名簿</p> <p>資料2 横浜市子ども・子育て会議 放課後部会 事務局名簿</p> <p>資料3 横浜市子ども・子育て会議条例</p> <p>資料4 横浜市子ども・子育て会議運営要項</p>
特記 事項	